

キャベツ安定生産に向けて鳥獣被害対策を実施

【平成 28 年 6 月 30 日掲載】

廿日市市吉和の（有）ハイランドファーム（尾崎昭則（おざきあきのり）代表）では、平成 28 年 6 月 7 日、約 70 a のキャベツ圃場にイノシシ対策として電気柵の設置を行いました。



【電気柵の設置方法を説明する普及指導員】

同社は、100 頭規模の酪農経営を行っていますが、今年度から新たにキャベツ栽培に取り組んでおり、5 月 15 日から順次定植していきました。

西部農業技術指導所では、尾崎氏から「キャベツの圃場にイノシシが出ている。」という相談を受けて、既に定植済みの圃場を中心に、ポールを 5 m 間隔に立て、電線を地上 20cm と 40cm の 2 段に取り付ける電気柵の設置方法を指導しました。

同社では、キャベツを 8 月上旬まで順次定植し、1.6ha を栽培する計画ですが、現在生育は良好で、7 月下旬から出荷が始まる予定です。尾崎氏は、「これ以上、耕作放棄地を増やしたくない。高冷地のメリットを生かして、夏秋期にキャベツ等の露地野菜を県内へ供給していきたい。」と抱負を語っていました。



指導所では、7・8 月定植後のかん水管理技術を指導し、活着の向上を目指します。

【順調に生育中のキャベツ（撮影 6 月 23 日）】

情報提供元	西部農業技術指導所
-------	-----------